



## 実体経済における世界への判断

令和7年12月22日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

実体経済はライフラインと社会国家を維持永続されるものである。これらは唯一実体経済における提供を経て自己を可能とできるものである。これらは実体経済への貨幣価値を新たにグローバル経済において考査できるものである。

これら他方においては金融経済が存在する。資本主義においては貨幣価値は現実における価値そのものであり、資本はそれを決定する基盤である。

実体経済は資本においてその所有を許容される。これらはグローバル経済の現実である。しかしじったき経済の生産性が、すべての現実を維持することは真実である。

これらが今日ささやかれる経済における安全保障の絶対的な真実であり、これらは世界経済におけるその真実をより大きく理解を要求するものである。



これらは国家における経済政策が、実体経済の育成と金融経済の運営を双方に  
いて求められるものであり、それらが国家における資本の形成と実体経済とい  
う基盤における未来の育成を実現できるものである。

また世界における巨大資本はグローバル経済の基盤であるため、経済の独立性  
の構築は必ずその資本力を求められるものである。

またグローバル経済の現実に対してそれに組み込まれることは、その世界資本  
の下経済の確立を行うことであり、それらへは正しい判断を要求されるもので  
ある。

また実体経済は生産性を有するものであり、金融経済はそれを持たない。それ  
らは正しい理解であり、

豊かさの創造は、実体経済において可能なのである。

これらは今日の世界経済のインフレや変化が金融経済において存在することを  
理解できるものである。

これらは適切な経済政策は国家と未来を与える唯一の基盤であり、それら視点  
における経済の安全保障は。資本と実体経済において求められるものである。



また自由貿易体制の崩壊は予測できるものである。これらは自己利益へのシフトにおける新たな世界の枠組みへの転嫁において存在するものである。

これらにおいて実体経済はその生産性において貨幣価値を正しく認識できるものである。それら資本価値が禁輸における通貨価値を与えることができるものであり、それら適切な資本価値への転換世界の金融の崩壊を与えることは予測できるものであり、それらにおいて世界の金融資本は先端産業への資本の投入を行うことは考えうるものである。